

第3学年B組 社会科学習指導案

日 時 令和5年11月4日（土）第1限
場 所 第3学年B組教室（教室棟3階）
指導者 西田 友亮

1. 主題（単元・題材）名 「民主政治と政治参加」

2. 目標

- (1) 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解する。議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。

〔知識及び技能〕

- (2) 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

〔思考力、判断力、表現力等〕

- (3) 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む力
・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。 ・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

4. STEP との関わり

(1) 社会科としてのとらえ

社会科では、地理的分野・歴史的分野においては世界や地域を考えていく中で、環境の視点から現地の人々の思いを通して事象を具体的に捉えていくことができる。また、公害などの過去の事例をもとにSDGs に対する考えを深めていくことができる。これらの学習してきた内容を STEP での取り組みに活用したり、STEP で研究したことを授業に発揮したりしていくことに期待したい。

公民的分野では、平成29年版学習指導要領において、地理的分野・歴史的分野で学習した事柄を踏ま

えて、よりよい社会を目指すため現代社会にみられる課題に対して主体的に関わろうとする態度の育成が求められる。STEP の学習での研究に向けた姿勢と双方向に影響させることができると考える。

(2) 育成したい資質・能力について

これまでも社会科では【根拠】を基に自分の意見をまとめ、発表などを通して【伝達・発信】することを大切に授業づくりをしてきている。本単元でも、【根拠】【じっくり・いろいろ】【アイデア】【問題発見】【問題解決】【振り返り】の6つの資質・能力は各学習活動を通して育成を図っていく。それぞれの時間で育成する資質・能力については「7. 指導について」で詳細に記述していく。また、【伝達・発信】【協働】は単元全体においてグループ活動や全体交流を通して育成を図っていく。

5. 単元について

本単元は、平成29年に告示された新学習指導要領の公民的分野「(2)内容 C 私たちと政治(2)民主政治と政治参加」に対応し、設定した。学習指導要領の解説では、選挙に関連して、「民主政治を推進するためには、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加が必要となること、また、国民の意思を国政や地方の政治に十分反映させることが必要であり、国民一人一人が政治に対する関心を高め、主権者であるという自覚を深め、主体的に政治に参画することについて多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにする」と記されている。日本は衆議院議員選挙で小選挙区比例代表並立制を採用し、小選挙区と比例代表の2つの選挙方式をとることで死票を減らすことを目指した選挙制度となっている。また一票の格差という課題に対して、選挙区や定数を変えながら格差の是正に取り組んでいる。ただ投票率は低下し、50%を下回るなど低水準が続いている。また世代間での投票率も大きく開きがあり、18歳に投票年齢が引き下げられたが、投票率は低い水準となっている。公民の授業を始めるにあたって最初の授業で行った授業アンケートでは、日本の現代社会の課題について少子高齢化に次いで、「若者の政治への意欲低下」を挙げている。また少子高齢化とつなげて「少子化が進む中で若者の投票率が低いとより政治に若者の意見が反映されない」という意見を持っている生徒もいた。本単元の授業前アンケートでも選挙の課題として「投票率の低下」が1番に挙げられている。また9割以上の生徒が選挙についてのニュースを見る、6割以上の生徒が親と投票に行ったことがあると回答し、9割以上の生徒が投票に行くべきと回答しており、選挙に対する興味関心が高い。ただ一方で将来自分が投票に行こうと思うかという問いに対し、行かない・どちらとも言えないと回答している生徒が3割以上おり、やるべきことと認識はあるものの、実際行動できるかわからないと考えている生徒も多い。

そのため本単元のはじめに模擬投票を行い、実際の選挙に近い状況を体験することや若年層の選挙へのかかわりに重点をおいて学習することで、生徒自身が政治・選挙を自分事と捉え、政治・選挙に参加する意欲を高めるとともに、国全体として政治参加への意欲を高めるためにはどのようなことができるかについて多面的・多角的に考察する内容とした。

6. 指導について

第1時では、衆議院議員選挙を想定した模擬投票を行い、現在の日本の投票のしくみについて理解させる。実際の選挙に近い状況を体験することで、なぜ現在の選挙・投票の仕組みが採用されているのかといった選挙の意義や選挙に関する【問題発見】をし、今後の時間で考える課題を意識させたい。

第2時では、第1時で学習した選挙について、特に「小選挙区比例代表並立制」など制度面から考察させる。授業アンケートから「今の日本の選挙制度はいいのか」ということ問い、選挙制度について議論することで、国民の声がより政治に反映できる選挙の在り方を考えさせたい。その中で、「効率と公正」「民主主義」といった現代社会の見方・考え方を使得って【じっくり・いろいろ】と考えるように指導したい。

第3時では、日本の選挙における投票率の低下の原因について考えさせる。授業アンケートから選挙の課題として「投票率が低い」ことが最も多く挙げられていた。その原因をできる限り【根拠】を持って考えることで、第4時・第5時での【問題解決】につなげられるように指導したい。またアンケートから自分たちと年齢の近い若年層の投票率に関する意見が多いので、若年層の投票率に視点を当て、その原因について考察させる。

第4時では、第3時で考察した原因を踏まえながら、投票に参加する人を増やす方法について考察させる。授業アンケートでは「どうすれば投票率が上がるのか?」という問いとそれに関連して、「どうすれば政治への関心が高まるのか?」という問いが多く挙げられている。第1時の【振り返り】の中で、インターネット投票の導入や投票所の増加といった【アイディア】が挙がっている。それらの方法を考えると同時に、その方法に課題はないか、新たな【問題発見】の視点で考えられるように指導したい。また選挙管理委員会の担当者に問いへの考えに対する評価をいただく。外部のステークホルダーとのつながりを感じることで、生徒の社会参加に対する意識が高まることを狙いたい。加えて第6時で単元を貫く問いについて改めて考察するために、政治意識の低い人々が投票する必要があるのかについて深められるように指導したい。政治への関心を高める方法について考察させる。

第5時では、本時までの学習内容から、単元を貫く問いについて考察させる。全体が行うべきことだけでなく、自分はどうするのかについて単元を【ふり返り】、自分の意見を多面的・多角的に考えられるように指導したい。

7. 指導と評価の計画（全5時間）

単元を貫く問い：どうすればよりよい民主政治を実現する選挙になるのだろうか？

時間	□ねらい ■学習活動	評価の観点			評価方法	育成したい 資質・能力
		知	思	態		
第1時	□模擬投票を通して、日本の選挙制度について理解する。 ■どのように投票しているのだろうか。	●		●	●ワークシート ●振り返り	【発】
第2時	□現在の日本の選挙制度の是非について考える。 ■今の選挙制度は民主的なのか。	●	●		●ワークシート ●問いに対する考え	【じ】 【根】

第3時	□日本の選挙での投票率，特に若年層の投票率の低水準の原因について考える。 ■どうして投票率は低いのか。		●		●問いに対する考え	【根】 【じ】 【発】
第4時 (本時)	□前時までの授業で考えてきた課題を意識して，投票する人を増やす方策について考える。 ■どうすれば日本の投票率を上げることができるのだろうか。		●		●問いに対する考え	【根】 【ア】 【解】
第5時	□民主政治のための選挙制度の在り方について考える。 ■どうすればよりよい民主政治を実現する選挙になるのだろうか。		○	○	○振り返り	【根】 【じ】 【振】

○「評価に用いる評価」 ●「学習改善につながる評価」

※育成したい資質・能力の表記は省略した名称で記述している。

根拠 ⇒ 【根】，じっくり・いろいろ ⇒ 【じ】， アイディア ⇒ 【ア】

問題発見 ⇒ 【発】， 問題解決 ⇒ 【解】， 振り返り ⇒ 【振】

協働 ⇒ 【協】， 伝達・発信 ⇒ 【伝】

8. 本時の指導

(1) 目標

①投票率を上げる方法について多面的・多角的に考察することができる。

[思考力，判断力，表現力等]

(2) 指導計画 (50 分)

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価	育成したい 資質・能力
1. 資料1・2から他国の投票率を上げる取り組みについて考える。 <予想される生徒の発言> ・インドっぽい。 ・指を立てている。 ・指に線が入っている。 ・ボタンを押している。 ・道で選挙している。 ・絵が描いてある。	○場合によって，押しボタンの字が分かる資料を提示する。 ○インドで資料のような工夫をしている理由について考える。 ○あくまでインドの状況を踏まえた上での工夫であることを押さえ，主発問につなげる。	

【課題】 どうすれば日本の投票率を上げることができるのだろうか？		
2. 投票率を上げる方策について、学級全体で話し合う。 ＜予想される生徒の発言＞ ・投票することを義務化する。 義務化している国では 90% 近くの投票率を達成している。 ・インターネット投票を認めることで投票所に行かなくても投票できるようにすれば投票率が上がる。 ・駅や飲食店など普段の生活で使う場所で投票ができるようにすることで、期日前投票が増えると思う。 ・選挙に行った証明を見せることでスーパーや飲食店で買い物をするると割引されるサービスを行う。	◆主発問について、個人で考える時間をとる。その後全体で交流する。(思) ○関連する発言や対立する発言を線で紐づけ、視覚化していく。 ○考えた案に課題や欠点がないかについて問い返す。 ○必要があれば、タブレットなどで根拠となるデータを探させる。 ○出た意見の中で、どのような政策が効果的かクラスで考えさせる。	【発】 【解】 【ア】
3. 選挙管理委員会の担当者から意見に対する評価をもらう。	○授業見学に来ていただいている選挙管理委員会の方の紹介をして、授業の講評をいただく。	
4. 民主政治を実現するための選挙制度について考える。	◆「投票率が上がれば、選挙として良いということなのか？」という問いについて、展開 2 での意見も含めて、個人の考えを記入させる。(思)	【振】

＜参考文献＞

- (1) 文部科学省(2017),『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 社会編』
- (2) 国立教育政策研究所教育課程センター(2020),『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会』
- (3) 全国社会科教育学会(2022)『優れた社会科授業づくりハンドブック 型にはまらない多様な授業を創る』
- (4) 明治図書(2021)『川端裕介の中学校社会科授業 見方・考え方を働かせる発問スキル 50』